

新潟の
門徒推進員

発行
浄土真宗本願寺派
新潟教区
門徒推進員連絡協議会

第15号
H30年3月1日発行

長岡組離郷門信徒の集い

in 築地本願寺



長岡組 西楽寺
川上 強 (釋義諦)
中央教修二四七回

私たち浄土真宗の門信徒には所属寺院の住職が毎月お勤めに訪問して下さい。この毎月の行事により、お寺と門信徒との結びつきは親密になり、私たちが門信徒であることを認識する機会になっています。

しかし、家を離れて独立した子息はこの機会が無く、お寺・仏教に疎遠な状況にあります。このことから長岡組が「長岡組離郷門信徒の集いin築地本願寺」を築地本願寺で行いました。

当日、長岡の参加メンバーはマイクロタクシーで東京築地本願寺に到着。初めての私は東京のど真ん中の築地に威容を誇る築地本願寺に驚き。先人の苦勞を思うとともに、浄土真宗の門徒であることをつくづく誇りに思いました。会場に着くと長岡にご縁のある門信徒の方々など総勢六十余名が参集しました。お勤めが行われ、長永寺木曾隆住職様の法話を聴聞した後、各寺院毎に分かれて自己紹介、挨拶などが行われました。

長岡出身の三十代男性は「ビジネスや子育てに追われて暮らしている。同郷の方の話は懐かしく、法話は、普段聴く事の少ない仏教に触れられて有意義であった」と話していました。情報交換や思い出話などで盛り上がり集いは終了しました。その夜は、自由参加の交流会が行われ東京以外の他近県にお住いの方々も参加。ここでも

初対面同士ながら長岡の話で大いで盛り上がりました。
翌日長岡勢は都内の東京スカイツリー、浅草寺を見学。浅草寺では所務部執事の清水谷尚順氏のご案内で、宝物殿と伝法院庭園を案内して頂き、帰路につきましました。

合掌



私と光源寺の澗光会



与板組 光源寺
黒川 博(釋勝幸)
中央教修 六一回

若い頃、子ども達に強い心を持ってもらいたいとの思いで光源寺仏教壮年会「澗光会(じゅこうかい)」のお世話になりました。そして三人の先輩方の後について中央教修へ。夜行列車のベッドでウツラウツラ。寒い寒い京都駅に降り立ち、受付までの間にタクシーで金閣寺、銀閣寺を巡りました。青空の下、改修を終えたばかりの金色に輝く金閣寺。これがジパングか。あの神々しさは今でも脳裡に鮮明に浮かびます。その夜出遇った全国からの同輩の話は珍しく、地域の違いを実感させられました。私の決意表明は夢に終わりそうですが、先輩の「伝道掲示板を設置したい」は現在も続いています。順番が巡って、何を書こうか迷いに迷って筆を握る時、「ひろし元氣か」という先輩の笑顔を思いだし、金釘流の文字が書き上がります。その人はお釈迦様とご一緒です。光源寺の門をくぐると本堂です。その手前、お庭の雪をまとった冬囲いは、兼六園と見間違えう情緒豊かな光景です。お盆前の清掃で手塩にかけて剪定した

樹木を守るための澗光会の傑作です。お盆前の清掃や冬囲い等々、行事を通して剪定や男結びを習い、一人前にお手伝いができるようになり喜んでいきます。

時代の流れででしょうか。墓じまいしたり、直葬を行うなど社会の変化なのか、常駐するご住職の居られないお寺が宗派によっては三〇%を超えるなか。両親の月忌にご当院様がお見えになり、ビックリすると同時に大変頼もしく思いました。安心してお世話になりながら朋に歩ませていただきたいなと思っています。

合 掌

病気になって感じたこと



与板組 常禅寺
安達所吉(釋仏所)
中央教修二〇二回

私は二年前に大病で入院しましたが、今のところ体の調子も良いように思っております。その時は大ショックを受けましたが、手術後は順調に回復に向かったようで、今は思っていたより良い方向だと思っております。

お医者さんから、歳に不足のない頃だから精密検査を勧められましたので、早速精密検査を受けることにしました。案の定悪いところがありました。入院して治療を受けました。お陰様で治療後大変良くなって、今、元氣になり喜んでおります。

入院中の頃のことを思い出しました。このまま治らなかつたらどうしようかなとか、又、この後何年も入院するようにならなければと不安でしたが、今では除雪作業も出来るようになり、自宅の仏壇にお念仏申す日々を送っております。

病気も心の持ちようで悪くもなるし、良くもなる、そうと聞かされておりますが、まさにその通りだと思います。私は絶対に治るようにならなかつたら自分で自分の体を信じるようになりました。これからも、体に気を付けて頑張っていきたいと思っております。

合 掌



伝灯奉告法要団体参拝



長岡組 西福寺
中村恒也(釋恒純)
中央教修二三四回

私は、二〇〇九年六月二三日帰敬式を受式、二〇一一年六月一六日「親鸞聖人七五〇回大遠忌法要」に長岡組で団参。二〇一四年六月六日新潟教区で「法統継承式」団参。二〇一四年七月一日〜一四日まで三泊四日「第二三四回門徒推進員中央教修」受講。

二〇一七年五月二三日から二泊三日で「第二十五代専如門主伝灯奉告法要」に長岡組からバス三台で団参する機会があり、家内ともどもご縁を頂いた。長岡を朝七時出発、一路京都に向かった。道中金沢の兼六園散策と昼食をとり、高速道路の工事による渋滞を避け琵琶湖西線経由で大谷本廟を目指す。

大谷本廟での納骨をされる方達と参拝を済ませた後、「祇園かがり火」で夕食のすき焼きをいただき、「京都グランヴィアホテル」で一泊。二日目、朝五時半過ぎ希望者でお晨朝参拝。朝食後、西本願寺書院など拝観した後、楠の巨木がある「青蓮院」へ、昼なのに薄暗い「親鸞聖人得度の間」等を

始めて参拝し、その後隣にある知恩院を参拝。昼食を和順会館「花水庵」でいただき、その後いよいよ「伝灯奉告法要」会場へ、正面右の最前列で参拝のご縁を頂く事が出来た。

法要に続いて、大谷宗家の皆さんがお揃いになり、その中でもインタビューにお応えになられた敬さまのお姿は緊張の中にも和やかでした。阿弥陀堂、御影堂には何回か参拝させて頂きましたが、その都度荘厳さを感じさせて頂く事が出来ました。その後、本願寺を後にして一路宮津市にある宿泊ホテルを目指してバスに乗り込み、途中豪雨になりました。

翌朝、雨の中をバスに乗り込み、天野橋立を目指しました。日本三大景天橋立の笠松公園に着いた時にはすっかり雨も止み、見学することが出来、「舞鶴引揚記念館」を見学、昼食を済ませて一路帰路につき、一行無事に帰岡する事が出来ました。阿弥陀様の大きなお慈悲の中で、感謝の日々を過ごさせて頂いております。合 掌



伝灯奉告法要に参拝して



元上組 託念寺
堀井美子(釋心清)
中央教修一一三回

元上組は十三ヶ寺でバス四台、総勢一六十二名の参加で、三月十三日から二泊三日の行程で京都へ出発いたしました。三月十四日午後、伝灯奉告法要は厳かに執り行われました。阿弥陀如来の光明を音

で表現したという古典雅楽の奏でる音が五感に染み渡り、背筋をピンと張ってこの法要に挑まなければと、気持ちを新たにしました。二千人の参拝者が、御影堂と阿弥陀堂に分かれましたが、スクリーンを通しての映像がまるで一つのお堂にいるような演出でした。二号車はバスの中で散華（念仏）や和讃などを練習しましたので、大きな声で読経できました。門主様と前門様が中間でご転座され、両堂の参拝者が、おつとめと一緒にできて、とても感動的な演出でした。

「伝灯のつどい」では、大谷宗家が入場されました。ご門主様のお話に続き、五才の長男敬様が手話でご挨拶されると、会場は一変和やかなムードになりました。親鸞聖人から受け継がれた浄土真宗のお法りを、次世代に伝承されることでしょう。

今回の伝灯奉告法要にあたり作成されたロゴマークは、「伝」という象形文字の糸を、糸巻に巻きつける「一つの中心をめぐる」人から人へと伝わっていく様子を表現しているそうです。「うけつぐ伝灯、伝えるよろこび」のスローガンのもと、感謝の気持ちで、日々を送りたいと思います。

私は、ご門主様の「念仏者の生き方」に述べられておりますように、阿弥陀如来のご本願を聞かせていただいて、「少欲知足」、「和顔愛語」という生き方は、仏さまの真似事になると思いますが、これからの生き

方の一つの目標とさせていただきたいと思います。そして、子や孫と一緒ににお念仏を喜びたいと思います
合掌



第二十五代専如門主伝灯奉告法要感想



元上組 明鏡寺
中静幸治（釋堅正）
中央教修二四一回

ご開山・親鸞聖人から第二十五代専如門主の伝灯奉告法要までは、七五〇年という長い年月に二五回しかない機会（前門様の時は四〇年前）その一回の伝灯奉告法要に参拝できたご縁に、感謝を申し上げます。三月一四日の晨朝の勤行は讃仏偈・正信偈をあげさせていただき、本願寺でお勤めができる喜びに、改まった気持ちでお勤めすることが出来ました。

午後からの伝灯奉告法要参拝者は二五〇〇名とのこと、阿弥陀堂・御影堂と両堂にて同時に行われました。厳粛の中まず1、散華（念佛）2、表白（法要の趣旨を仏祖の尊前で申し上げる）3、正信念仏偈4、念仏和讃、5、回向句と法要が進められ、専如ご門主様のご親教の中で「念仏者の生き方」をお話くださいました。

そのお言葉には、これからは平易な言葉で教えを伝えていきたいという決意がありました。また「苦悩を超えて生きていく道を教えてくれるのが仏教」ですと言われております。自分は、「和顔愛語」が欠けていると思ひ今

後は、自然に当たり前のことを当たり前に取り組んで行こうと思っております。

続いて「伝灯のつどい」は大谷宗家と樂しもうといったイベントでした。園児による花束の贈呈、前門様のメッセージ(映像)、ご門主様のこれまでの歩み(映像)、大谷家のご家族が入堂されご門主様のお言葉があり、インタビュ―ではご門主様の長男の大谷敬様が幼稚園で友達と一緒に遊ぶのが楽しいと言われ、何年後には敬様もご門主様になられるのだなと思つて拝見しました。和やかな雰囲気の中、大谷宗家が手を振られ退堂なされました。最後に恩徳讃斉唱をして専如門主様の伝灯奉告法要が終了しました。

この度の法要参拝に参加させていただき改めて考えさせられました。浄土真宗の基本魅力、所属寺院(明鏡寺)、元上組、新潟教区と今後の少子化、高齢化にともなう宗教離れに対応するには、教区、組、各寺院の区別化を取り払って真の働き、宗門の未来に対応しなければと、思いを強く持ちました。

元上組一六二名、法要は阿弥陀堂で参拝をさせていただきました。私は門信徒の活動はまだ日が浅いのですがこのご縁に感謝いたします。

合 掌

元気をありがとう



三条組 長念寺
山口定一(釋大乘)
中央教修二四七回

身体能力の発達は、昨今のスポーツ界、存在するヒーローに、驚かされるばかり。スキージャンプの高梨選手をはじめ、将棋の藤井棋士、卓球の伊藤選手、女子ゴルフの畑岡選手等々、最近新聞・テレビを賑わせていることは周知のとおりです。

始めるきっかけは選手それぞれかもしれないが、いずれも中学生、高校生時代の若さで今を輝いている。一瞬の勝敗の裏には、計り知れない努力が隠されていることは想像が付きませんが、さらに上を目指し挑戦し続ける彼らに終わりが無い。彼らのどこにそんな力を秘めているのか。結果だけが重要視される中、勝つても反省、負けても腐らず、そのひた向きさに清々しさと潔さを感じてなりません。

そんな彼らの一挙手一投足に一喜一憂、泣いたり感動したりである。過ぎ去った我が青春に重ね合わせ、やり残してきたこと、やり過ぎてきたこと、言い訳を含めて彼らを無性に応援したくなる。

そして今、そこそこの満足と幸せを感じている今日この頃です。
連研で学んだ内容とは全く逸脱してしまいまいたことお許しください。

合 掌



どんとこいフェスタに参加して



三条組 長念寺
金子 誠(釋泰誠)
中央教修二二三回

昨年三月二六日(日)午後から「子ども若者ご縁づくり」部会担当で、どんとこいフェスタが行われました。私も部会員として教区の住職さん方はじめ、先輩門徒推進員さん、スタッフの皆さんにお世話になりました。ながら、微力でしたが運営に参加しました。

当日は六十名ほどの参加者の中、西念寺さんのライブ、腕輪念珠作りなどを行ったのち、ご法話を聴聞しました。夕食交流会では班ごとにお好み焼きやタコ焼き作り、お腹を満たしたあと、参加者全員でビンゴゲームを楽しみました。

最後に灯の集いを行い、厳肅な雰囲気の中皆さんのお陰で終了しました。この度の体験を通して、寺、門徒推進員のみなさんと縁を深めて行けるよう健康に気を付けて、色んな行事に参加してまいりたいと思っております。

合 掌

伝灯奉告法要団体参拝



地蔵堂組 勝敬寺
永塚耕作（釋実明）
中央教修二二六回

昨年五月、地蔵堂組では本山伝灯奉告法要団体参拝を致しました。まず、大谷本廟に参拝しました。皆さんと説明を聞き見学をしました。翌日御影堂で法要に参加、感動、一生の思い出になりました。聞法会館で休息、買い物、中央教修の時を思い出し懐かしく、門徒推進員として頑張りたいと

思い、自分の寺の行事にも参加していきたいと思いました。

地蔵堂組・勝敬寺では一月の子供餅つき大会には大勢の子供たちが来て、住職の話聞いて、お経を上手に読む子供も沢山います。その後、つきたての餅を沢山食べてゲームをします。また、八月には子供お泊り会をします。午後五時から本堂で住職のお話を聞き、一班から四班に分かれてゲームをします。夜九時には消灯ですが、なかなか眠りません、楽しいのでしよう。私も手伝いが出来る事が嬉しく思います。

合 掌

今年七月に第一連区門徒推進員実践運動研修会が新潟教区担当のもと行われます。大勢の方々と話し合い勉強していきたいと思えます。

御正忌報恩講法要の参拝とご縁



新潟組 真称寺
村山誠一（釋建法）
中央教修一九二回

今年も御正忌報恩講法要のご縁をいただき参拝することが出来有難く感謝すると共に、お念仏に遇えた喜びを身に沁み「親鸞

聖人」のお遺徳を偲ぶことが少しでも出来たのではないかと思います。

このたびは一月九日初日法要に初めて新幹線を利用し出掛けましたが、従来はよく夜行高速バスや急行北陸線にて夜行日帰りなどして参拝させて頂いていました。初日法要では、御正忌報恩講法要をお迎えするまえの「御親開扉」から参拝する事が出来ました。

ご門主様より「ご真影様」ご安置のお厨子の扉が開けられ、「親鸞聖人座像」を拝観する機会を得ることが出来、深く心に感じるものを身に味あわせていただきました。

ご影堂内は静寂の中お念仏申し手を合わせご遺徳を偲び、「阿弥陀如来」のご本願によるお救いを心から喜んでいようでした。なぜご縁に惹かれ十年余り毎年参拝を続けられるのは私自身「おまかせします」という心がそうさせるのでしょうか？この時期になるとソワソワし足が向いてしまうのです。寒い頃で足の指先までしみる時節柄ではありますが、朝の晨朝から



一日ご本山において念仏三昧で過ごす事や、同参拝者の皆様と共に勤めし、各布教使の有難い法話を聴聞する事が私の心の拠り所となつていたのでと感じ、「生かされている」実感を中心に喜びお念仏申すばかりです。

これからも「生かされている」有難さにご縁を感謝し、「親鸞聖人」のご遺徳を偲び、ご苦勞を通じて「南無阿弥陀仏」のご本願によるお救いを深く味わわせて頂くため、健康である限り念仏者として参拝を続けていきたいと思っております。 合 掌

伝灯奉告法要と三都物語



新潟組 信生寺
長場昭一(釋弘宣)
中央教修一三五回

新潟教区団参総数七組合計 八九七名

(内、新潟組団体参拝者 九八名)

新潟組は十期(最終回)五月二十九日午後二時からの法要に良い席に座り参拝しました。専如門主様の「念仏者の生き方」ご親教を聴聞、前門様、そしてご門主様ご家族様の元氣なお姿に接し、ご安泰を感じまし

た。式は厳肅に執り行われご満座目前。帰敬式と龍谷ミュージアム見学に別れ、自由行動となり、六時に東急ホテルより「ガンコ高瀬二条苑店」へ行き夕食をとり東急ホテルに宿泊。

二日目大阪の「あべのハルカス」「北山ダイニング」「天満天神繁昌亭寄席落語」有馬温泉「兵衛伺陽閣」に宿泊。

三日目、九時半、神戸別院「明石海峡大橋通過「北淡震災記念公園」「屋島断層保存」道」の駅「淡路海峡楼」で昼食、神戸元町、南京町中華街散策、夕方五時伊丹空港発八時新潟空港着、豊栄の自宅へ無事に着。

その旅の感想ですが、京都へは何度もご縁がありました。大阪のビルの多さと高さ東京と互角、力強いものを感じました。有馬温泉は、初めてで泥白色の湯は田舎の温泉なのかと思いました。食事は常に満腹状態、日本は贅沢しているなあ。

出発は好天に恵まれ飛行機の窓からの景色は最高でした。佐渡島、能登半島、北アルプス、高山の残雪、大阪都市の眺め、まもなく伊丹空港着、便利で最高!ところが、帰路では高気圧と低気圧の関係でガタガタゴトゴト、外は暗闇、機内では「ご安心ください。ベルトを締めて、膝を抱えて身を低く、まもなく到着です」のアナウンス。

計画立案と色々ご苦勞なさいました関係者の皆様には感謝申し上げます。有難うございました。

合 掌



平成二十九年 度

門徒推進員代表者会に出席して



巻組 善了寺
小川省吾(釋願成)
中央教修一四〇回

去る一月十七、十八日、開法会館に於いて、門徒推進員代表者会が開催され出席して来ました。

開会式に続いて門信徒教化部長より連研活動状況報告がありました。

○今年度開催終了4.6%、今年度開催及び予定51.2%、今年度まで一度も開催していない・過去に開催したが今年度は開催していない37.4%、来年以降に開催6.8%

○開催しない理由「A参加者が集まらない」「B組内の理解が得られない」「C住職の負担が大きい」「D組内が広域」

○連研以降の行動「A門徒として自覚を持ってくれるようになった」「B寺の仏事に積極的に参加するようになった」「C寺に対して関心が深まるようになった」「D話し合い法座により身の回りに沢山の疑問があることに気付くようになった」

○使用されている連研教材「A連研ノート(E)」「B講師のレジюме」「C組作成教材」

御同朋の社会をめざす運動(実践運動)総合基本計画重点プロジェクト(改定案)の講義がありました。総合基本計画のストーリーガンに『結ぶ絆から広がるご縁へ』が揚げられました。専如門主様は念仏者の生き方の中で経済格差を指摘されています。貧困の克服に向けて子どもたちを育くむために：等を挙げておられます。内容は多岐ありましたが私が聞かせて頂いた事には今世界は豊かで便利で高齢化が進んでおります。又その反面貧困格差、差別、平和等々様々な問題が深刻さを増しております。私達はお聞かせ頂いている様に全て生きとし生ける者は如来の子として目覚めが大切であり布施の精神を持って自分の出来ることから

活動する事が何より大切であるとおづくと思いました。

懇親会では総局に就任されました巻組長 厳寺住職阿部慶一様と親しくお話する機会に恵まれ本願寺と身近になったようで大変嬉しく楽しい懇親会でした。

活動報告として山口教区の実践活動の内容が紹介。お寺とのご縁づくりが今迄法義が長く伝わっていたのは法事を中心としていた事が要素となっていたようです。しかし最近親鸞様の七五〇回大遠忌法要や報恩講でさえ陰りを見せ始めてきました。従って一般の家庭でも法事や仏事をないがしろにする傾向にあります。だから朝夕の勤行をキチンと勤める事が御法義をよるご第一歩となり、御法義を聴聞する事が大切であると目覚めお寺に近づき、それが寺と門信徒との繋がりを深める事になるという説明でした。

山口教区の活動報告のあと全体会議を終えて閉会式にのぞみ帰路につきました。大変な事でありましたが有意義な二日間でありました。

合掌



親鸞聖人越後七不思議巡りの旅



巻組 常敬寺
富井 仁(釋円証)
中央教修一四二回

巻組門徒推進員連絡協議会の研修行事での親鸞聖人七不思議めぐり旅に参加させて頂きました。平成二九年十月十五日日帰りで。出席者二十二名、午前八時巻文化会館前出発です。最初は鳥屋野の逆さ竹で西方寺。聖人がこの里で布教の際、持っていた竹杖を地面にさし仏縁を説いていたところ、その竹が芽を出し、不思議なことに逆さに生えたと言われている。

次に旧黒埼町山田・田代家に伝わる焼鮎の地。聖人が鳥屋野の草庵を出立し、見送りの信徒と共にこの地で別れの宴を催されたその折に出された焼いた鮎を聖人が近くの山王神社境内の池に放された。不思議にもその鮎が生き返って泳ぎ出したと伝えられています。

次に旧京ヶ瀬村小島・梅護寺、八房の梅。聖人が念仏の教えにこの地に立ち寄った時に「塩に漬けたる梅が一つの花に八つの実を結ばせたならば疑う人としてないであろう」と仰せられその種を庭に植え念仏の有難さを説かれたところ不思議にも芽を出し

枝が茂り花一つに八つの実を結ぶようになった。

昼食は北方文化博物館で豪農の建物、施設を案内していただきました。

次に旧安田町保田・孝順寺、三度栗。信徒の一人が焼栗を聖人に出された。それに仏縁を説いてまいるところ芽が出て一年に三度実を付ける。

次に旧田上町湯田上・了玄寺、繋ぎ榎(がや)。聖人が護摩堂山の城主に招かれて法話を説いた際、お茶うけにと榎(かや)の実を出された。その一粒を地面に植えて仏縁を説いたところ芽を出し実を結んだとのこと。しかもその実には一粒ごとに糸で繋いだ跡が残っており、又一枚の葉が表向きと裏向きに互い違いになっているのも見受けられる。この榎の木は六〇〇年前護摩堂山城から了玄寺境内に移植されたものだ。

有意義な七不思議巡りでありましたが、心残りが国府別院片葉の葦、時間があれば又の機会と思いい、無事帰路出発地の巻文化会館前に午後五時到着となった。

合掌



★おしらせ

【第一連区門徒推進員実践運動研修会】

～新潟教区担当開催～

会場 本願寺新潟別院(研修会)
長岡グランドホテル(懇親会)

(宿泊)

日時 平成三十年七月七日(土)～
八日(日)

講義 「御同朋の社会をめざす運動」
(実践運動)の取り組み

～門徒推進員としての今までと
今後、次世代へ～

講師 内田正祥さん

(連研中央講師 三重県)

参加費 全日 程：15,000円

懇親会まで：7,000円

講義のみ：2,000円

詳細につきましては、後日ご案内いたします。

新潟教区門徒推進員連絡協議会担当により開催行事となりますので、是非とも多くの方のご参加協力を宜しくお願い申し上げます。

|| 編集後記 ||

二月の思わぬ降り続く雪に、新潟県内各地では交通渋滞、家の雪掘り、雪下ろし等で毎日除雪に追われた日々でした。

新潟別院も庫裡の周りの雪と屋根からの落雪が繋がり、さすがに職員のみだけでは対応出来ず、ご住職さん、門徒推進員さん、宗派ボランティアの方々のご協力をいただき除雪をいたしました。

近年にない豪雪に皆様もご苦労されたことと思います。

ようやく、少しづつ暖かくなり、雪も融け、草木が芽吹いてきました。あれだけ待ち遠しかった春がやってきましたね！

事務局



本堂の様子



事務所玄関の様子

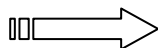


★門徒推進員の方が、ホイルローダーで
駆けつけてくださいました。

★ボランティア活動者（2月9日）



輪番役宅玄関 除雪前



輪番役宅玄関 除雪後